

## 人文地理学概論Ⅱ

Introduction to Human Geography Ⅱ

KIDOGUCHI Tomoaki

木戸口 智明

科目ナンバリング：DEC-2-360-06/DIB-2-431-06/DIS-1-351-06/DLP-2-365-06

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目



## ■授業の目的及び到達目標

本講義は、日本の食料・農業・農村をテーマに据え、人文地理学の基本的な考え方について学習します。食べ物は人間が生きるために欠かすことのできないものですが、現代の食生活は国内外にわたる生産、加工、流通、消費の仕組みによって成り立っています。また、日本では農村という特徴的な景観を有する地域社会が形成されてきました。本講義では、「地域」や「場所」といった切り口から、私たちの食を取り巻く環境変化について地理学的な観点から説明できることを到達目標とします。

## ■授業計画

- 1 イントロダクション  
講義の進め方について説明したのち、地理学の観点から食料・農業・農村を考える意義について説明します。
- 2 現代の食生活  
自らの食生活を振り返りながら、現代における食の特徴について考えます。
- 3 フードシステムとはなにか  
食べ物が私たちの口に入るまでにどのような空間的軌跡を辿っているのかについて学習します。
- 4 農業の地理的分布  
農業生産の地域性が生まれる要因について農業立地論をもとに学習します。
- 5 高度経済成長期における農業・農村 (1)  
日本の高度経済成長に農業、農村が果たした役割について学習します。
- 6 高度経済成長期における農業・農村 (2)  
基本法農政下における農産物の選択的拡大と産地形成の論理について学習します。
- 7 農産物過剰と生産調整  
農産物過剰への対応として実施された生産調整が地域にもたらした影響について学習します。
- 8 農家兼業の論理  
農家の兼業化が進んだ論理と、兼業化が農村部の地域経済に果たした役割について学習します。
- 9 フードシステムの構造変化  
現代日本における食料消費の変化と農業生産の縮小メカニズムについて考えます。
- 10 日本農業の発展可能性 (1)  
農産物のブランド化、付加価値化を取り上げて、将来的な日本農業の発展可能性について考えます。
- 11 日本農業の発展可能性 (2)  
農業経営の大規模化と法人化を取り上げて、将来的な日本農業の発展可能性について考えます。
- 12 「地方消滅」論  
「地方消滅」論を取り上げて人口減少局面における農村社会の存続について考えます。
- 13 本講義の振り返り  
本講義の内容を振り返るとともに、最終レポートの内容について説明します。

## ■授業の方法

この講義はオンデマンド型方式で進めます。講義動画の配信、講義資料（PDF形式）の配布、課題等の提出は、すべてBlackboardをつうじて行います。毎週の開講曜日にBlackboardをつうじて講義動画を配信します。毎回の講義では、リアクションペーパーと講義内容にかんする小課題を課します。講義にかんする質問については、次週の講義の冒頭でフィードバックします。

## ■予習・復習

配布資料と参考書をもとに予習、復習に取り組んでください。また、日頃からニュースや新聞等に触れて、農業・農村にかんする情報を収集するように心掛けてください。予習・復習の時間は、各2時間とします。

## ■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

リアクションペーパーおよび各回での小課題の提出状況（50%）、最終レポート（50%）、にもとづいて評価します。最終レポートの詳細については、第1回と第13回の講義で説明します。

## ■教科書・参考書

教科書：特に使用せず、配布資料をもとに講義を進めます。

参考書：伊藤 達也・小田 宏信・加藤 幸治 編（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房。  
上杉 和央・香川 雄一 編・近藤 章夫 編：『みわたす・つなげる人文地理学』古今書院。  
荒木 一視（2013）『食料の地理学の小さな教科書』ナカニシヤ出版。

※この他の参考書は講義のなかで適宜紹介します。なお、参考書の購入は必須ではありません。

## ■関連する科目

「人文地理学概論Ⅰ」とあわせて受講することが望ましい。「自然地理学概論Ⅰ/Ⅱ」「地理学概論Ⅰ/Ⅱ」とも関連しています。